

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(98号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL / 0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部一
●代表/阿部一 ●副代表/菊池せい子

信仰: 熊本・大分の大震災に愛を

- いつ収束するとも分からない震度の大きな地震が、熊本・大分を中心とした九州で連日起こっています。家屋が破壊され、人命が失われ、さらにライフラインの見通しも立たない恐怖の中で、避難所での過酷な生活を送られている方々を、神が支えて下さるように祈っています。
- 私たちも2011年に東日本大震災で、頻発する地震と共に今まで目にしたこともない「巨大な津波」による生活破壊の恐ろしさを経験してきました。被災5年を経ても「復興」はまだまだ遠い先のことです。
- 今回の九州の地震災害には、東日本大震災と別の大きな問題が含まれています。阪神淡路大震災と東日本大震災の違いとはまた別の新たな問題です。
- 対処の難しい問題は、「いつ収束するか」「どこまで拡大するか」の見通しが付かないことです。もう一つは地震帯が連続していて「安全な場所」が確定できることです。そのために、家屋や道路、橋脚、鉄道などのインフラの復興は、東日本大震災以上の年数がかかると思われます。
- 九州キリスト災害支援センター**が直ぐ立ち上がり、キリスト教関係の支援団体やクリスチヤン・ボランティアが直ぐに活動を開始されたことに感謝します。多くの支援を頂いた私たちも直ぐに支援金を送り、日々の祈りにその支援活動のために祈り続けています。
- 私たちの経験から、被災地に必要なものは時間と共に変わってきますので、被災地の発信する必要なものに応えるのが一番有効で、大きな助けになります。
- できれば、被災地の商店を通して物資を購入して被災者を支援することが二重の支援になるというのも、私たちが支援活動で学んだことです。
- 熊本市の市長がTVのインタビューで、「阪神淡路や東日本の大震災のことは頭で分かっていた積もりだったが、備えていた何倍の被災状況に、何も理解していなかつことが明らかにされた。」と反省の弁を述べていました。
- 自然災害はいつ起こるか分からず、予想はあくまでも今までの経験からの推定です。人間は災害の最低の予防しかできず、ましてやコントロールなどはできないものだとう謙虚さが必要です。そして、この悲惨さに負けない愛を働かせることができます。
- 聖書でも、主の再臨がいつ起こるかはだれも知らない。その日は盗人のようにやって来ると警告し、日頃から備えが重要であることを教えています。そしてその前兆として人の間の「愛が冷える」と指摘しています。ここに私たち人間が立ち向かえる目標があります。
- 私たち3.11大震災の被災者にとっては、皆さんの祈りと愛の励ましがどれだけ大きな力になったでしょうか。「愛が豊かに生きる支援」こそ、今回の支援でも望まれます。今日、私たちにできることは何でしょうか。

先月の多くの恵みから

- 4/17に、礼拝でメンターの森谷正志師から「良きわざと宣教」についての奨励を頂きました。愛餐会後に2016年度の年次総会を開催し、2015年度の主の恵みに感謝し、2016年度の活動計画を検討しました。今年は、マタイ16/15を目標聖句として毎朝、目覚めた時に、これに答え、常にキリストと共にいる生活を目指します。続けて祈りの支援をお願いします。
- 4/4にこの冬最後（今期11回）の仮設への灯油支援を行うことができました。皆さんの愛の支援で温かくこの冬も過ごすことができました。感謝！



4/10に仮設の方と復興住宅に移った方が教会の支援への感謝の会を開催

- 4/10の午後に、仮設に残っている被災者と仮設を出られた被災者が集って、5年間にわたる教会の支援への感謝の会を持って下さいました。小さな群の私たちを用いてくださった支援者に心から感謝します。
- 毎週土曜日、朝8時からの馬っ子山山頂で行われている早天祈祷会に、さまざまな先生方や兄姉が参加し、励ましを下さっています。4/16には進藤龍也師も参加されました。
- 4/7に秋田の斎藤美津子さんが主管する「ハート・メッセージ」より割り箸で励ましを書いた4月からのカレンダーを本年度も支援頂きました。仮設の他に石巻中央キリスト教会、渡波キリスト教会、希望の家を通して被災者の手に渡して頂きました。
- 4/4には石巻中央CCに奉仕に来られていた台湾の伍師チーム、4/23には坂戸ブラジル人教会の時田師チームが来訪、4/24の礼拝にはDr木下ご夫妻、HosmerとDean師家族が礼拝に出席されました。
- コーディネートを依頼されていたオングジャンイ（「陶器師」）のコンサートが4/16に渡波CCでもたれました。
- 4月も励ましの献品と献金で支えて頂いて感謝です。
- 5/1は浜松ともみ師、5/15は永井敏夫師が礼拝メッセージの奉仕をして下さる予定です。
- 4/29に八重子姉のご主人の協力で、秋保へ教会員の交わりお出かけができ、楽しい時を過ごすことができました。

■ 今月、次の課題を祈つていけなければ幸いです。

- 2016年度教会の活動が主に喜ばれる働きができるよう。
- 会員のお母様が脳内出血で入院中です。意識が回復しますように。
- 熊本・大分の地震災害の被災者と被害教会のために。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10:00-11:30
・祈り会（毎週水曜日）	10:00-11:30
・聖書を読む会（第1火曜日）	10:30-12:00
・ほっと・Time（第3火曜日）	10:30-12:00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13:30-15:00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10:00-12:00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

信仰を詠う

5月 大漁旗への想い

一輪のたんぽぽ軒に顔を出す

「野の花を見よ」とみ声に包まる

大漁旗 手放す漁師の息聴こゆ

3. 11刻む 船名撫でる

大漁旗 手提げに変身支援者へ

3. 11の残映歩く



阿部 八重子

4月14日、コーラス「花」は初めての平筒沼でのお花見会を持ちました。浮橋橋を渡り乍ら桜鑑賞に漫る・・・爛漫の花中にハモる歌仲間。煩事を外に至福のひととき・・・

4月に来訪されたと先生方・兄姉・ボランティアおよび支援活動と教会活動の様子



「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

3.11大震災前後の

石巻の教会事情

阿部 一

1600年（慶長5）関ヶ原の戦い後、伊達政宗が仙台に築城し仙台藩としてこの地方を支配する前から、米川から岩手県南部にまたがる地区には、切支丹によって導入された廬屋と呼ばれる鉄の精錬所が沢山あった。当時既に鉄はこの地の重要な産物となっていた。伊達政宗が西洋文化の素晴らしさと、キリスト教精神の崇高さに触れ、仙台藩内でのキリスト教布教を容認したので、切支丹禁制の時代に多くの切支丹がこの地に移住していた。切支丹弾圧が始まった後も、仏教を隠れ蓑とし、隠れキリシタンは、山間部、三陸沿岸部で暮らしていた。石巻では、渡波、牡鹿、雄勝などで、子安觀音や墓石などに隠れキリシタンの形跡があることです。伊達政宗は、ノビスパニア（メキシコ）との直接貿易を求めて、ルイス・ソテロを迎へ、布教と引き換えにイスパニア（スペイン）国王およびローマ教皇のもとに支倉常長を派遣した。その時に建造したのが使節船「サン・ファン・パウティスタ号」で、石巻の月浦から出帆したと言われています。

そのような歴史的背景がある石巻には、明治以降キリスト教が比較的早く根付いた。私たちが石巻に移住した1978年には、既に市内には石巻ハリストス正教会（1872年）、日本基督教団石巻山城町教会（1885年）、日本基督教団石巻栄光教会（1887年開拓開始、1997年に石巻中央一丁目より現在の南谷地に移転）、戦後に開拓された改革派石巻伝道所、石巻聖書バプテスト教会の6つの教会があった。その後、石巻キリスト教会（兄弟団）、いしのみなど教会（保守バプ）が開拓を開始し、キリスト聖協団宮城教会も会堂を建築して赤井で活動を始めた。私たちの石巻祈りの家（単立）は2008年に活動を開始した。

そして、2011年の3.11東日本大震災の際には、上記の内、石巻栄光教会、聖協団宮城教会、改革派石巻伝道所、石巻キリスト教会が津波によって大きな被害を受けた。前3教会はリリフォームが既に終わっているが、石巻キリスト教会の建物は解体され、新たに建設されるICC（石巻クリスチヤンセンター）内で集会がもたれることになっていて、現在借家で活動している。今回の大震災では、多くのキリスト教関係の宣教団や教会が被

害の大きかった渡波地区に支援活動に入り、現在もそれぞれが支援活動と共に新たな宣教活動を続けている。

既存の教会はすべて石巻の中心部にあったが、震災後に石巻中央キリスト教会が市内中心部に会堂を新築して開拓伝道を開始した。そして、教会のなかつた市の周辺地区の渡波地区に渡波キリスト教会（サマリタンズ・メモリアル・チャーチ）、福音自由石巻教会が会堂建築して活動を開始し、ニューライフセンター（アライアンス）は被災した家屋を購入、リフォームして活動の拠点としている。The Rock（ビー・ワン）は子供青年向きのプログラムを中心、また別の宣教師がJ's Caffeを開き、この地で宣教活動をしている。お茶こはうす・オアシス教会は、渡波地区と市内をつなぐ内海橋の側に拠点を置き活動を続け、現在今集会所から近いところに会堂を取得する計画である。東京バプテスト教会石巻は、市内西南部の借家で活動を続けてきたが、この4月に宣教師が東京に退き、その後を栗原教会の岸浪師が活動を引き継いでいる。さらに、市内西部の新館・浦屋敷地区は、震災当初からこの地区の支援を続けてきたDean師（ルーテル同胞教団）がこの地に住み、コミュニティーサポートセンター「石

巻希望の家」を立ち上げ活動している。ICCは、

現在渡波に拠点を置き、今回の震災で繋がった教会、支援団体のIMN（石巻ミニストリーネットワーク）を導きながら、地域のために音楽活動やスポーツ活動、支援活動を続け、石巻駅のICC建設に向けて準備している。市内北部では岸浪師が蛇田集会所を指導し、他に牡鹿半島の支援した各港で家の教会を指導している。K2インターナショナルグループが南東部で、社会復帰を目指す青年たちと共同生活をしながら集会を持っている。また、「のぞみプロジェクト」は、Be One 東北支援に属する宣教師たちによって運営され、被災者女性の収入源として、津波で壊れた

陶器破片からブローチ、ネックレスなどの装飾品を作成し販売する活動を、福岡でコミュニティセンターを運営していた宣教師が日本の古着をリメイクして美しい布製品を作り販売する「恵みプロジェクト」の活動を展開し、今年女川駅前の商店街に「絆・フレンド」をも立ち上げた。この5月には矢本と石巻の中間地の赤井で支援活動をしてきたアーミング・グレース支援センターが会堂を新築し活動を始めている。日本基督教団が築山地区に「エマオ石巻」を、またカトリックが「カリタス石巻」を立ち上げて、仮設や被災者支援を続けている。また、今年からSENDグループが牡鹿半島先端の鮎川で開拓伝道を始めた。各団体・教会の福音宣教活動のために覚えてお祈り下さい。主の栄光がこの被災地に現されますように。

